

森の学校

1, 趣 旨

植樹活動や地元の木材を使った木工体験を通して、環境や森林の大切さの理解を深める。

2, 期 日

平成26年10月7日(火) 日帰り

3, 主 催・実施場所

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森

4, 協 力

木族工房 永井 将人

5, 参加対象

森町の幼稚園児の親子 50名

6, 参加実績

児童24名 保護者28名 合計52名

7, プログラム内容

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
10月7日 (火)				集合9:30	バス 移動	開会 式	森林体験 & ネイチャー ゲーム	バス 移動	昼 食	木工体験 イス作り	バス 移動	解散14:30



8, 活動の様子

秋晴れの心地の良い日、参加者52名が元気に森小学校プール前に集合した。木族工房代表、永井将人講師から「よく見てみると、普段は気づかなかった発見が自然にはたくさんある。今日は、親子でゆっくりと自然を散策してほしい。」と挨拶があった。その後、バスに乗車し、大沼セミナーハウスへと向かった。到着後、さっそく親子で自然散策を行った。ゆっくりと歩きながら、途中途中で講師から、参加者に質問を投げかける。「これはなんでしょう？」見てみ



ると、トウモロコシの芯のような茶色の長さ6cmほどのものである。「えー、なんだろう？」と参加者は興味津々の様子である。正解は、松ぼっくりであった。続けて講師が質問する。「それでは、周りをよく見てください。ここにはなんの木が生えていますか？」参加者は、視線を下から上へとあげ、森を見渡す。参加者から次第に「どんぐりー！」と声上がる。そして、「なぜ松ぼっくりの木はこの周りには生えていないのに、松ぼっくりの芯があちらこちらに落ちているのかなー?」「わかった！リスだ！」と参加者はこのように自然の中をゆっくりと歩きながら、思い思いの発見をしていた。また、同じどんぐりでも、大きさが違うどんぐりがあり、どんぐりにも種類の違う木があることに驚いていた。参加者か

らは、「普段何気なく歩いている道にもどんぐりが生えています。コナラなのかミズナラなのか息子と確認してみます。」「親子共に、自然を満喫することができました。」との声があった。

ネイチャーゲームは、ルールはひとつ「話してはいけない」である。森の中に不自然なものがないか注意深く探して歩いた。参加者は一列になり、30メートルほど歩き、自然のなかにクリップやマジック、ぬいぐるみなど、自然の中にはないものが何個置いてあったかを互いにゴールで確認しあっていた。最多はパーフェクトの9個。保護者のお母さんであった。永井さんは「ゲームを通して、木々や草を、よく見てみたよね。クリップやぬいぐるみだけではなく、



なにか発見した人はいるかな？」と参加者に問いかけた。「かわいいはっぱ！」「とうもろこしの芯（松ぼっくり）、またあった！」と参加者は答えていた。ゲームを通して、講師からは、「何げなく歩いていると見過ごしてしまう発見が自然にはたくさんある。ぜひ、親子でこれからも、自然をゆっくりと満喫して欲しい」との話があった。親子で手をつなぎながら、ゆっくりと歩いた。たまに、大きなドングリ、かわいいドングリ、素敵な葉っぱを拾って袋に入れていた。どの家族も笑顔で大沼セミナーハウスを後にした。

バスに乗り、ネイパル森へ向かった。到着後、昼食をとり、13時から木工体験「イス作り」を行った。トンカチを使って、真剣な表情で釘を打ち込む子どもの姿を、心配そうな顔や子どものたくましくなった姿に目を細めながら見つめる親の姿が印象的であった。全部で18本の釘を一生懸命打ち込み、完成したイスに満足げに座る子どももいた。参加者からは「普段、家ではできないことを体験させることができて良かった。大切に使いたい。」との声があった。どの家族も満足げな表情で、それぞれの帰路についていた。

9. 参加者の声

- ・親子共に、自然を満喫することができました。空気がおいしい！自然ってすごい！
- ・普段、家ではできないことを体験させることができて良かった。大切に使いたい。

10. 事業の分析と考察

親子での森林散策や、ネイチャーゲームを通して、自然の大切さや面白さを参加者は味わうことができた。また、地元の木材を使った木工体験を通して、より一層木に親しむことができたと考える。



11. 成果と課題

・森林散策や地元の木材を使った木工体験を通して、森林や環境の大切さについて理解を深めることができた。